第７回室戸市統合中学校あり方検討委員会議事録（概要）

日　　時　　令和７年２月２７日（木）１９：００～２０：１５

場　　所　　室戸市役所２階第１会議室

出席委員　　小松伸稔委員長、手島泰副委員長、小松武志委員、萩野慎人委員、
谷渕隆二委員、松尾拓哉委員、中屋康一郎委員、北川弘美委員、
貝川和嗣委員、黒岩文弥委員、中原洋人委員、作田将基委員、
勝田真也委員、西本啓純委員、井口司委員、京田ひとみ委員、
町田幸寛委員、石建結香委員、森岡美和委員　計１９名

欠席委員　　松吉由季委員、上田摩美委員、中村幸奨委員、杉本優委員、
岡田茂委員　計　５名

事 務 局　　百田教育長、山本教育次長兼学校教育課長、
祝学校教育課長補佐、髙﨑学校教育課班長　　計４名

出 席 者　　高知県立山田特別支援学校田野分校教頭　長谷川直樹氏

議　　題　　⑴　統合に伴い配慮を要する事項に関することについて
～多様な課題を抱える児童生徒への支援～（報告案）
⑵　統合に伴い配慮を要する事項に関することについて
～防災対策、通学等に係る課題～
⑶　児童生徒へのアンケート集計結果について

議事録（概要）

１．開会

２．議題

⑴　統合に伴い配慮を要する事項に関することについて
～多様な課題を抱える児童生徒への支援～（報告案）

事務局説明 （学校教育課長補佐）	**資料　第７回資料１** 別紙資料５は、前回配布しました地域説明会等における意見をまとめたもの、別紙資料６は前回いただいた意見交換等を踏まえまとめた資料。 これらを踏まえた検討結果としては、【校内サポートルー

	ム、教育支援センターやICTを活用した自宅学習活動等も踏まえ、開校準備委員会において課題を整理し、児童・生徒や保護者の不安を解消できるよう具体的な対策を検討いただきたいこと。また、遠隔な統合に向けて早期からの事前交流は大変重要であるため、関係機関の連携による効果的な交流の機会をより多く確保することで児童生徒及び教職員の不安を解消するとともに、統合後においても低年齢からの交流を継続し、室戸市の子どもたちが統合中学校に通いたいと思える学校づくりを進めていただきたい】とまとめたので、内容の確認いただきたい。
委員長	資料１の報告案について、質問や意見、修正や付け加えたいことはないか。
委員	なし。
委員長	多様な課題を抱える児童生徒への支援についての本委員会の報告は、この内容で、案を削除するということでよいか。
委員	異議なし。

⑵　統合に伴い配慮を要する事項に関することについて

～防災対策、通学等に係る課題～

事務局説明 （学校教育班長）	**資料　第７回資料２** スクールバス運行概要（案） ・スクールバスの対象は、統合中学校に通う中学生、ただし、統合中学校から３㎞圏内の生徒は除くとしているが、検討課題となる。３㎞の目安は、右図の①元方面、平等津橋辺り、②菜生方面は菜生分団跡地、③高岡方面、三高小学校、④椎名は丸山長寿園。通常、国の定めた基準で言うと中学生の通学距離としては、６㎞以内の決まりはあるが、これを６㎞にしてしまうと、元地区や現在スクールバスに乗っている子たちも乗れなくなっていくので、３㎞にするのか、もっと短くするのか検討が必要。 ・乗車人数に空きがある場合乗せるのかも検討材料。そうなると年度ごとに乗れたり、乗れなくなったりとなってしまうの

	で、今後検討が必要と考えている。 ・運行路線は、７路線を考えている。運行路線の中で各停留所の間隔は １ ㎞程度を現在は想定しているが、実際、現地の停留できる場所に合わせて前後すると思うが、今後停留所の場所も検討が必要となっている。 ・運行時刻は、現在の中学校では、登校時に１便、通常の下校時１便、部活動便１便が平日に出ている。土日は部活動便等も出ているが、一旦平日で話をする。現在、室戸中学校は８時着の運航便で、下校が４時１５分発、部活動が６時４５分発でやっている。それを元に一番遠い所で 40 分程度かかる計算となっている。間の停留所の数等が決まらないと細かい数字は出せないが、あくまでも案と捉えてもらえたら。 ・登校時は、佐喜浜・椎名で１便、高岡１便、津呂１便、吉良川１便、羽根１便。下校時は、佐喜浜・椎名１便、高岡・津呂１便、元・吉良川・羽根１便を考えている。部活動便も下校時と同じにしている。ただし、乗車人数により便数は変えていくことになる。 ・現在も案内している注意点を参考に乗せている。 スクールバスの利用申込書を提出いただく。その際、登校時はのらず、下校時のみ乗りたい等の要望は記入いただくようにしている。安全な広さが確保できる場所を確保するため、登校時・下校時に乗車場所が変わる可能性がある。 ・所定時刻に乗車場所にいない場合、バスは次の乗車場所に進むため、利用しない日の連絡は必要ない。時間を厳守いただきたい。毎月学校が運行表を配布。学校行事等により時間が大幅に変更する場合は、臨時運行便の運行表を配布する。 ・スクールバスの対象外の範囲の３㎞について、運行路線の各地区の停留所についての意見等をお願いしたい。停留所に自転車で行く子も多いので自転車小屋の設置も検討が必要だが、全部には難しいので、地権者で知り合い等がいれば、ご協力いただきたい。
委員長	事務局の説明に質問はないか。

委員	なし。
グループ内意見交換（10 分間）	
意見発表	
1 班	佐喜浜のスタートはどこからになるか。子どもがいる場所を設定して、臨機応変に対応をしてくれるということか。
事務局	はい。小学生の子がいる入木辺りからスタートと考えているが、ある程度、家から徒歩や自転車で通える辺りまでの停留所は作る予定。運行表に乗るか消えるかは対象児童か年度によって変わる。ただ、国道から奥に入った場所については、国道周辺まで出てきてもらう必要はあるので、そこは地域で協力いただきたい。
1 班	・臨機応変に停留場を設定してもらえるのであれば、ありがたい。徒歩や自転車でバス停に行くのもワンステップハードルが上がるので、なるべく近くまで来ていただけたらいい。 ・バスに GPS は絶対付けてもらいたい。親が自分の子どもがどこにいるか分かれば、帰りの時間も把握できるし安心できる。朝も、バスがどこまで来ているか確認し、子どもと会話しながら準備できるので、 ・バスに GPS をつけたら、防災にも役立つと思う。どこで被災したか分かるようにしておけば安心になる。通学距離が遠いので、通学時間も含めて、調節しながらやっていただきたい。
2 班	なし
3 班	国道から離れたところについて、中川内から羽根小学校にはスクールバスがでているが、統合中学校にも出る予定はないか。
事務局	・悩ましいところで、今は大岸からは小学校へのスクールバスは出ていない状況。例えば、中川内から大岸まで自転車で出てきてもらうとかの対応は必要かと思っている。吉良川の西山とかも下まで降りてきてもらう必要があるので、その辺は協力いただきたい。国道から少し入った船場や大岸辺りに 1 カ所設けるなどは考えられる。
3 班	室戸中学校で現在運行しているバスで問題点とか課題はでてい

	ないか。
事務局	・以前シルバーでの運行していた時、高齢者に運転さすのは怖いといった意見もあり、現在は大新東株式会社に業務委託している。そこは、運転できるのは 65 歳まで、65 歳以上はトラックの試験等を受けたうえで給食車だけの運行等の対応をしているため、安全面的には、業者が責任もってやってくれている。 ・当初は子どもを置いて行ったなどの問題も数件出たが、１、２週間で落ち着いた。たまに、態度が悪いと言った意見もあるが、その都度業者に研修をしていただいて対応している。苦情が来れば、その都度業者に連絡し改善してもらうことになる。
委員長	中川内小中学校の閉校に伴って、中川内地区の小中学生は、 今、スクールバスにしていますよね。それは、当然続きますよね。
事務局	それを変えないと、今回区域外としている三津地区等にも影響があるので、閉校関係なく距離で決めないと地域ごとに不公平になるかなというところがある。
４班	・３キロの範囲でいいかは、国が定めた６キロより短い方が親としては安心。歩かしたくないわけではないが、やはり心配が増えるし、天候などいろいろな面でバスに乗れるのはありがたい。 ・乗車人数に空きがある場合に乗せるかについて、もう少し説明いただきたい。
事務局	例えば、佐喜浜・椎名便で２４人乗りのバスに２０人しか乗っていない場合、道中の長寿園から統合中学校までの間であれば乗れると思う。ただ、翌年度、佐喜浜・椎名便の子どもが増えて、２４人になった場合には、空きがなくなるので乗れなくなるといったことになるので、どこまで臨機応変にするのか。 バスに乗れない子は、別で自転車購入の補助等で対応した方がいいのかなど、空いていれば乗せるのは可能ですが、毎年変わると混乱するかもしれない。

4 班	・理解できた。 ・各停留所の 1 キロはベスト。 ・自転車小屋や停留場、特に自転車小屋は作って欲しい人も多いと思うが、安いものではないので、大体の場所の案を事務局で作っていただいたら、具体的な話ができると思う。
5 班	・学校の立場から言うと、中学生で体力をつけないといけないのは分かっているが、三津坂を登るのは気持ちが折れるのではないかと思っている。あの坂を自転車で雨の日も来るかなと思ったり、歩行者、自転車のトンネルが狭いので安全面に不安があるので、救済策をとっていただけたらと思う。 ・運行時刻は、今室戸中学校での部活動便は 6 時 15 分。30 分早めている。それでも、羽根、佐喜浜に帰り着くのが、6 時 55 分は、遅いと感じる。開校準備委員会で教育課程の編成等の協議になると思うが、保護者の立場からしても 7 時 25 分にバス降りて、そこから自転車で帰ると 8 時になるのは、教育的にもよくないと思っている。6 時 15 分に出たとしても 7 時過ぎに着く子が多いのはあまり好ましくないし、何らかの対応を考えていかないとと思っている。
委員長	・部活動終了後の時間は、来年度以降の開校準備委員会で精査いただく。 ・三津坂の件、トンネルも歩道はあるが、かなり心細い。1 人で不審者もいないと限らないので、特別の配慮があればいい。 ・その他、ご意見はないか。
委員	なし
委員長	各班からの意見は、次回まとめていただきたい。

山田特別支援学校田野分校におけるスクールバスの取組について

長谷川教頭	**資料　第 7 回資料 3** 山田特別支援学校田野分校の説明をさせていただく。中芸高校の中にある東部地域の知的障害、特別支援のニーズのある小等部から高等部までの子どもさんが通っている学校。今年度、

	安芸市、奈半利、室戸市から 24 名通っている。佐喜浜の子どもさんもいる。田野分校への登校の方法は、スクールバスの利用がほとんど。バスは高知県東部交通に委託。安芸駅から田野分校までの安芸コース。佐喜浜から室戸岬、田野分校に来る２コースある。佐喜浜からは１時間程度の運行。特別支援学校でスクールバス運行の１つの目安として乗車時間１時間以内と考えており、それ以上は負担になるので、今のところ佐喜浜まで行くのが上限と考えている。 自分は、今年田野分校の教頭となり、防災のことを考えるにあたり、一番怖いと思うのが、スクールバスに乗車時の被災。学校で被災した場合は、学校の建物は地震に強く建てられている強固な建物なので、ケガをしないように揺れをしのいでいくことで安心できる。家庭の場合も家族に見守っていただけることで安心できる。スクールバスでの被災した場合は、どこで被災するかは分からないが、運転手さんと同乗している介助員さんに避難行動を委ねることになる。そのことも想定しながら、スクールバスでの防災、避難行動を考えていくことが必要。 今から、本校の取組を紹介するが、やはり課題もたくさんあるので、一緒に考えていけたらいいと思っている。 各コースで避難できるところを設定している。本校のバスは国道沿いを通っており、各停留所に家族がつれてきてもらっている。停留所は、子どもの自宅の最寄りで利用される所を毎年設定している。設定の中で、避難タワーや高台があれば、路線図の中で設定をしている。室戸方面についても、室戸市から田野町までの国道沿いの高台や避難タワーを設定している。 安芸コースと室戸市から田野までの避難所の設定の条件については、高知大学の岡村先生に実際にスクールバスに乗車いただいて、ここが危ないやここに逃げれば良いなどの助言をいただいたうえで、避難場所を設定している。ただ、今年からは佐喜浜からの子どもさんが利用されたこともあり、佐喜浜から室戸までの避難タワー等の設定がまだできていない。山沿いの海岸沿いを走っていくので、また、情報もいただきたい。バス会

	社の運転手さんからも情報を聞きながら早急に設定を急いでいるところ。海沿いを走ることで、避難設定が難しさを感じている。 スクールバスの避難訓練を年に 1 回実施している。運行中に、被災した状況で、避難所へ移動していく訓練。室戸バスは、分校を出て、奈半利駅の建物の上に、安芸バスは、安田町の土佐鶴工場のある高台に逃げる訓練をした。今までの避難訓練は、バスごと逃げて手っ取り早く訓練が終わってしまっては、訓練にならない。一番怖いのは、バスを捨てて運転手さんと介助員さんが子ども達を誘導して高台に逃げないといけない状況で、そこで学校と連絡して安否確認する手続き等が足りていないだろうと思い、今年避難訓練をやって思った。 介助員と運転手さんが主導して避難行動ができるような避難訓練をしていかなければならない。もう一つ、本校は小学から高等部までのお子さんがいるが、高等部や中等部は、しっかりした子どもさんもいるので、介助員や運転手の大人だけでなく、その生徒達も、年下のお子さんの手を引いて逃げるという一緒に命助かるという意識も訓練の中で芽生えていけたらと考えている。 避難訓練の様子の資料。介助員と他の運転手にも情報共有していただくために東部交通の社員にも同乗してもらった。被災したらどこに逃げてという学校との連絡も介助員さんに各バスに携帯電話を持って行ってもらっている。被災した時に電話が使えなくなる場合もある。それも課題。介助員が子ども達をバスの外へ誘導して、奈半利駅の階段を上って高いところへ登って行くというのが一連の避難行動。 介助員や運転手も何もない状況で、2 人でという状況はなかなか難しい話と思ったので、地震対応カードを作成した。また見ていただきたい。介助員と運転手がどのような行動をして、どのようなことを言えばいいかを準備して、これをめくりながら避難訓練をした。この通りに行くわけではないが、スタンダードな行動として用意している。被災した時の避難行動を誘導

	するための介助員、運転手の行動について、整理していくことで、被災した時の一助になればと会社にも渡しているし、バスの運行日誌にも挟んでいるので、緊急時にもそれを見ながら対応していただけたらと考えている。 　このように避難完了、安否確認までできたらと、こういうカードも利用している。避難誘導や安否確認などについてももっと詳しくしていかなくてはいけないし、避難所も早急に定義していかなければいけない。 　バスに GPS という声もあったが、私も重要なことと思っている。バス会社にも相談しているが、バスに配布されている携帯電話がガラケーなので、スマートフォンなら Google の GPS や携帯電話で GPS 機能が使えたり、共有したら学校の私の携帯からバスの位置が分かったりの機能もあるが、検討いただけないかお願いしている。東部交通の通常バスについては、会社でバスがどこを走っているか把握できる機能はあるが、学校のスクールバスでの共有はできにくいところがある。バスの会社の資源に学校の要望というのは難しいところもあり、違う方向から考えていかないといけない。今後の課題。 　GPS は特別支援学校のスクールバスでも懸案事項になっており、高知市内のスクールバスでの渋滞やバスがまだ来ないと保護者から問い合わせがあったりする。バス停の暑い所で待っていたりすると、体の弱い子どもは命の危険にもなる。やはり被災、防災を考えたら GPS の利用は有効と話を聞いて感じた。 　色々課題はたくさんあるが、色々アイデアを聞かせていただけたら嬉しい。
委員長	質問等はないか。 発災時には、まずバスを止めて、乗っている児童生徒の安全を確認して、最寄りの避難所まで行くが、バスをそこで止めて、そこからすぐ高台をめざす事にはなってないですよね。その辺を教えて欲しい。
長谷川教頭	道路状況を運転手に確認していただき、行けるかどうかもあるし、最寄りに高台があるかないかも判断していただいたうえ

	で、行けるなら行く。行けなければ、バスを捨ててであったり状況判断をしていただくようにしている。
委員長	国道５５号線は海岸線が長いのでいつどこであるか分からないから、避難場所が遠い場所もあるので、ここできたらどうするなど、絶えず逃げ場所を考えておかないといけない。
長谷川教頭	バスの試乗をするが、もし、ここで起きたらどこへ逃げるか、山を駆け上がっていかないといけないのかも想像したりする。ただ、その状況の中で２人の大人で子どもが全員無事誘導できるか考えると、より安全な避難場所や経路を具体的に示していかないと、探していかないといけないと考えている。
委員長	介助員は、児童生徒の理解、一定の知識を持った方を採用しているか。
長谷川教頭	介助員の採用はバス会社に一任している。特別支援教育に関しての理解があるかないかについては、ないことも。そこも懸念されるところなので、次年度からバスの会社は毎年入札して、決定したら、私から研修にあたるような会を計画している。
委員	移動の時は東部交通の職員が同乗ということだが、被災時に子どもに何かあった時の責任の所在はどう考えているか教えていただきたい。田野分校は、委託先に子どもは預けた状態であると思うが、仮に起きた時の最終的な責任の所在をどこに置いているのか。
長谷川教頭	その点、勉強不足で、答えが難しい。
委員	責任の問題でいくと、被災した時に、運転手、指導員にも防災の教育はできていないと、避難誘導が難しいし、室戸市の場合、バスの運転手さんだけで、佐喜浜から三津坂までの海岸線が他の都道府県と比べて長い方ではないかと思う。集落がなく、山、海があって、避難となると山に上がらないと行けない。例えば、道が崩れたり、崖崩れで何日間か孤立状態になった時に、心理的に運転手と子ども達だけでどう過ごすのか課題。もう一人補助員で元教員やカウンセリングなど子どもたちのことをよく知る資格を持った人が乗っていれば、被災時にも役立つ。

	信用していないわけではないが、運転手から子ども達が性的な被害というのも心配。実際、東北の避難所では起きていて、可能性は0ではない。その場で、誰が責任を持つのかを解決しないといけない。 集落がない場所で被災して孤立状態になった時に備えて、バスにどのくらいの物資を置くか、それとも避難の道中に物資を置いておくのを集落に協力してもらうとかも課題。 親がいれば子どもも安心するが、運転手と子ども達だけでどのような避難の仕方になるのか、東北のスクールバスでの事例があれば参考に考えていくなどこの佐喜浜からの長い海岸線沿いをどうするかは課題。
委員長	スクールバスは5台かまえると思うが、5人の運転手以外に介助員は考えていないか。
事務局	バスは5台以上、とりあえず中型車5台、プラス臨機応変に動ける 10 人乗り位を何台かとは考えている。介助員は、今まで小学校の低学年や特別支援の子どもが乗る時に、シルバーと契約していた時代には、介助員一人乗っていただいていたことはある。中学生でどこまで対応するのか、毎回1人乗せるとなると人件費の問題も出てくるので、今後の検討課題。 避難場所や地震時については、スクールバス乗車中の避難訓練やバス停で待っている時の被災に備えた避難場所の子どもと保護者、運転手への周知はしないといけない。 避難先での犯罪行為はどこまで防げるかは、不確定な部分もあるので、そうなった時の責任問題はケースバイケースで、運行中に起きた問題は、一定運行会社に責任はあるが、走行中に道が割れたなどの自然災害については、難しい部分もある。逃げることができたのに逃げなかった等は責任を問われるとは思う。 GPS は、車に付けるのは問題ないが、子どもに持たす場合、充電が課題。もう一つタグを持たした場合は、停留所や学校についた場合は通知がいくが、GPS みたいに間は追えないので、今後対策の検討は必要。GPS をスクールバス全体につけること

	は、すぐできると思うが、見れるアプリがすぐーるとは連携していないので、保護者に色々なアプリを入れてもらわないといけなくなるので、検討が必要。
委員	佐喜浜から山の区間（尾崎から椎名）があった場合どうするか。
事務局	せめて椎名まで行って上に上る道へ、尾崎は奥に逃げても低いので。バスもなかなか入れないし、現実的に考えられるのは、椎名のところまでなんとかバスで行ってもらう。
委員	バスに、避難道具を載せておくとか、子ども達用の避難倉庫をおいておくとか。
事務局	はい。佐喜浜の尾崎周辺は、けっこう難しい場所と考えている。バスに備蓄するのか、避難所に備蓄するのかは防災とも協議しながら検討する。地震の規模にもよるが、津波来ないレベルであれば、できる限り車で大きめの避難場所に行けるようであれば行ってもらうのが一番いいのでは。
委員	大きな地震を想定した場合、バスでの移動はリスクが出てくると、高台に行くしかないと思う。
事務局	椎名、佐喜浜辺りが急傾斜地になっていて、地震で徒歩で山に上がれないところなので。東北では車を捨てて逃げろとなっていたが、状況判断して、逃げるのであれば、車で逃げるというのが主流と思われる。安全に徒歩で逃げるとなっても、落石があると危ない。岬から東側は急傾斜地なので、その辺も考えて防災とも一緒に考えていかないといけない。
委員	防災と考えてもらわないといけないと思うし、逃げられるところへ逃げたとして大津波警報が出た場合、警報が解除されるまで動けないと思うので、そこをどうするのか、想定した時に、どこに避難しているか分かれば、近くの避難所から物資を持って行ってもらうとか、安全なルートを辿っていくとか。それでも大津波警報が解除されるまでは難しいと思ったり。 今すぐ結論を出す必要はないので、時間があるので、そこはしっかり考えていかないといけないと思う。
委員長	実際どんな地震か分からないので、避難警報が出されたら、

	防災課は半日から一日はたぶん動きにはならない想定で、市内の各地区に防災課が設置した防災倉庫や備蓄品があるが、当然それは市民用、小中学生も市民ですが、それでも十分な数は置けていない。学校教育課から防災対策課にもお願いしても良いと思っている。 　何かご意見はないか。
長谷川教頭	スクールバスの防災の視点をいただいたので、佐喜浜への室戸路線の防災に対する情報を共有いただけたら嬉しい。今後、室戸市からお預かりしている子どもさんの安全も守っていきたいので、皆さんの話が聞けて、答えは出ないが、たくさん気づかされた。
委員長	田野分校のスクールバスの取組について、何か質問はないか。
委員	スクールバスを利用されている子どもが途中で気分が悪くなった場合、どのような対応をしているのか。
長谷川教頭	介助員は契約的には医療行為ができないので、バスを停車して保護者に連絡をとっていただき、バスまで迎えに来ていただく対応をしている。てんかん発作や緊急を要する場合は、バスから救急車を要請するような対応をしている。
委員長	その他、ご質問等はないか。
委員	なし。

⑶　児童生徒へのアンケート集計結果について

事務局説明 （学校教育課長補佐）	**資料　第７回資料４** 　１月下旬から２月１２日まで児童生徒や保育保護者の方を対象としたアンケートを実施した。詳細な集計は改めてお知らせするが、次回のテーマとなっている部分（学校名、校章、校歌、制服等）があるので、どのような回答であったか、次回までに目を通していただきたい。